

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2019年11月1日
【四半期会計期間】	第74期第2四半期（自 2019年7月1日 至 2019年9月30日）
【会社名】	大都魚類株式会社
【英訳名】	DAITO GYORUI CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	取締役社長 網野 裕美
【本店の所在の場所】	東京都江東区豊洲六丁目6番2号
【電話番号】	東京(03)3520-8012
【事務連絡者氏名】	経理部長 筒井 章勝
【最寄りの連絡場所】	東京都江東区豊洲六丁目6番2号
【電話番号】	東京(03)3520-8012
【事務連絡者氏名】	経理部長 筒井 章勝
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第73期 第2四半期 連結累計期間	第74期 第2四半期 連結累計期間	第73期
会計期間	自2018年4月1日 至2018年9月30日	自2019年4月1日 至2019年9月30日	自2018年4月1日 至2019年3月31日
売上高 (百万円)	52,293	49,678	109,435
経常利益 (百万円)	229	18	427
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益 (百万円)	137	39	261
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	138	29	180
純資産額 (百万円)	9,491	9,468	9,533
総資産額 (百万円)	24,765	23,979	23,091
1株当たり四半期(当期)純利 益 (円)	43.55	12.50	83.06
潜在株式調整後1株当たり四半 期(当期)純利益 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	38.3	39.5	41.3
営業活動によるキャッシュ・フ ロー (百万円)	2,684	366	2,383
投資活動によるキャッシュ・フ ロー (百万円)	110	71	140
財務活動によるキャッシュ・フ ロー (百万円)	1,853	75	1,791
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高 (百万円)	1,124	1,704	1,333

回次	第73期 第2四半期 連結会計期間	第74期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自2018年7月1日 至2018年9月30日	自2019年7月1日 至2019年9月30日
1株当たり四半期純利益 (円)	9.57	10.55

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営んでいる事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について重要な変更はありません。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

当第2四半期連結累計期間における当社グループの連結業績は、水産物卸売事業の取扱単価低下、数量減少を要因として、売上高は前年同期に比べ（以下同じ）5.0%減収の49,678百万円となりました。損益につきましては、売上高と売上総利益率の減少や築地市場から豊洲市場への移転に伴う費用の増加等もあり、14百万円の営業損失（前年同四半期は、194百万円の営業利益）、経常利益は91.9%減益の18百万円となり、特別利益として固定資産売却益等を計上した結果、親会社株主に帰属する四半期純利益は、71.3%減益の39百万円となりました。

セグメント別実績は次の通りであります。

[水産物卸売]

売上高は5.6%減収の45,316百万円となり、セグメント損失は104百万円（前年同四半期は、101百万円のセグメント利益）となりました。

[不動産賃貸]

売上高は178百万円と1.2%の増収となり、セグメント利益は94百万円と4.6%の増益となりました。

[水産物その他]

売上高は4,183百万円と2.1%の増収となりましたが、販売費及び一般管理費の増加により、セグメント損失は4百万円（前年同四半期は、2百万円のセグメント利益）となりました。

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、季節的な要因により売上債権及びたな卸資産が増加したこと等により、前連結会計年度末に比べ（以下同じ）887百万円増の23,979百万円となりました。

負債は、季節的な要因により短期借入金や仕入債務が増加したこと等により、952百万円増の14,511百万円となりました。

純資産は、利益剰余金の減少、その他有価証券評価差額金の減少等により、64百万円減の9,468百万円となり、自己資本比率は39.5%（前連結会計年度末41.3%）となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間におけるキャッシュ・フローの状況は次の通りであります。

営業活動によるキャッシュ・フローは、季節的な要因による売上債権及びたな卸資産の増加があったものの、同じく季節的な要因による仕入債務の増加等により366百万円の収入（前年同期は2,684百万円の支出）となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、保有資産の売却による収入があったものの、製造設備の更新・増強等により、71百万円の支出（前年同期は110百万円の支出）となり、財務活動によるキャッシュ・フローは短期借入金の増加等により、75百万円の収入（前年同期は1,853百万円の収入）となりました。

この結果、現金及び現金同等物の期末残高は370百万円増加し、1,704百万円となりました。

(3) 経営方針・経営戦略等

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）の事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(5) 研究開発活動

該当事項はありません。

(6) 主要な設備

当第2四半期連結累計期間において、新たに確定した主要な設備の新設等の計画は以下の通りであります。

会社名、 事業所名	所在地	セグメント の名称	設備の 内容	投資予定金額		資金調達 方法	着手及び完了予定	
				総額 (百万円)	既支払額 (百万円)		着手	完了
大都魚類(株)	東京都 中央区	水産物卸売 不動産賃貸	社宅 賃貸設備	810	7	自己資金 及び借入金	2019年 10月	2020年 7月

(7) 資本の財源及び資金の流動性についての分析

当社グループの資金政策として、グループの資金調達を当社に集約することによって効率化を図っております。
 また、内部留保の充実により、有利子負債の圧縮を目指しております。

3【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	10,000,000
計	10,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間 末現在発行数(株) (2019年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (2019年11月1日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	3,162,274	3,162,274	東京証券取引所 (市場第二部)	単元株式数 100株
計	3,162,274	3,162,274	—	—

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
自 2019年7月1日 至 2019年9月30日	-	3,162,274	-	2,628	-	1,627

(5) 【大株主の状況】

2019年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式(自己株式を除く。)の総数に対する 所有株式数の割合(%)
マルハニチロ(株)	東京都江東区豊洲三丁目2番20号	1,029	32.69
大洋エーアンドエフ(株)	東京都中央区豊海町4番5号	125	3.97
神港魚類(株)	兵庫県神戸市兵庫区中之島一丁目1番1号	100	3.18
(株)マルハニチロ物流	東京都中央区豊海町14番17号	90	2.86
農林中央金庫	東京都千代田区有楽町一丁目13番2号	88	2.82
九州魚市(株)	福岡県北九州市小倉北区西港町94番地9	80	2.54
早乙女 修司	栃木県小山市	40	1.29
九州中央魚市(株)	熊本県熊本市西区八島町726番地2	40	1.27
日本サイロ(株)	千葉県千葉市美浜区新港3番地2	40	1.27
広洋水産(株)	北海道白糠郡白糠町庶路甲区6番584	40	1.27
計	-	1,673	53.16

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2019年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 14,000	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 3,137,200	31,372	-
単元未満株式	普通株式 11,074	-	-
発行済株式総数	3,162,274	-	-
総株主の議決権	-	31,372	-

(注) 1 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が300株(議決権3個)含まれております。

2 「単元未満株式」の欄には、自己保有株式が7株含まれております。

【自己株式等】

2019年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
(自己保有株式) 大都魚類株式会社	東京都江東区豊洲六丁目6番2号	14,000	-	14,000	0.44
計	-	14,000	-	14,000	0.44

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（2019年7月1日から2019年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2019年4月1日から2019年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,333	1,704
受取手形及び売掛金	7,648	7,782
たな卸資産	6,604	7,225
その他	190	36
貸倒引当金	247	254
流動資産合計	15,530	16,494
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	2,380	2,333
土地	2,656	2,656
建設仮勘定	317	325
その他(純額)	319	315
有形固定資産合計	5,673	5,630
無形固定資産	432	392
投資その他の資産		
投資有価証券	911	899
破産更生債権等	2,568	2,590
その他	524	534
貸倒引当金	2,549	2,562
投資その他の資産合計	1,454	1,461
固定資産合計	7,561	7,485
資産合計	23,091	23,979
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,439	4,372
短期借入金	7,780	7,950
未払法人税等	27	47
賞与引当金	11	42
その他	619	433
流動負債合計	11,878	12,845
固定負債		
退職給付に係る負債	1,045	1,035
その他	634	629
固定負債合計	1,680	1,665
負債合計	13,558	14,511
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,628	2,628
資本剰余金	1,628	1,628
利益剰余金	5,004	4,949
自己株式	24	24
株主資本合計	9,237	9,182
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	245	238
退職給付に係る調整累計額	50	47
その他の包括利益累計額合計	295	286
純資産合計	9,533	9,468
負債純資産合計	23,091	23,979

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第 2 四半期連結累計期間】

(単位 : 百万円)

	前第 2 四半期連結累計期間 (自 2018年 4 月 1 日 至 2018年 9 月30日)	当第 2 四半期連結累計期間 (自 2019年 4 月 1 日 至 2019年 9 月30日)
売上高	52,293	49,678
売上原価	49,240	46,816
売上総利益	3,053	2,861
販売費及び一般管理費	1 2,858	1 2,875
営業利益又は営業損失 ()	194	14
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	25	20
持分法による投資利益	2	5
償却債権取立益	1	17
その他	24	9
営業外収益合計	54	52
営業外費用		
支払利息	14	16
その他	4	2
営業外費用合計	18	19
経常利益	229	18
特別利益		
固定資産売却益	0	45
その他	-	3
特別利益合計	0	49
特別損失		
固定資産処分損	0	3
減損損失	2 13	-
特別損失合計	13	3
税金等調整前四半期純利益	216	64
法人税等	79	24
四半期純利益	137	39
親会社株主に帰属する四半期純利益	137	39

【四半期連結包括利益計算書】
 【第2四半期連結累計期間】

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
四半期純利益	137	39
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	2	6
退職給付に係る調整額	0	3
その他の包括利益合計	1	9
四半期包括利益	138	29
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	138	29

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第 2 四半期連結累計期間 (自 2018年 4 月 1 日 至 2018年 9 月30日)	当第 2 四半期連結累計期間 (自 2019年 4 月 1 日 至 2019年 9 月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	216	64
減価償却費	164	181
減損損失	13	-
貸倒引当金の増減額(は減少)	42	20
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	41	14
受取利息及び受取配当金	25	20
支払利息	14	16
売上債権の増減額(は増加)	1,156	156
たな卸資産の増減額(は増加)	2,674	620
仕入債務の増減額(は減少)	1,198	933
その他	258	86
小計	2,591	317
利息及び配当金の受取額	31	26
利息の支払額	14	16
法人税等の支払額	110	17
法人税等の還付額	-	56
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,684	366
投資活動によるキャッシュ・フロー		
投資有価証券の売却による収入	-	5
有形及び無形固定資産の取得による支出	99	140
有形及び無形固定資産の売却による収入	0	50
その他	11	13
投資活動によるキャッシュ・フロー	110	71
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	1,950	170
配当金の支払額	94	93
その他	2	0
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,853	75
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	941	370
現金及び現金同等物の期首残高	2,066	1,333
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,124	1,704

【注記事項】

（四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理）

（税金費用の計算）

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

（四半期連結貸借対照表関係）

たな卸資産の内訳は次の通りであります。

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
商品及び製品	6,293百万円	6,983百万円
原材料及び貯蔵品	310	241

（四半期連結損益計算書関係）

1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次の通りであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
販売諸掛	191百万円	155百万円
保管料及び運搬費	595	583
市場使用料	175	152
完納・出荷奨励金	89	86
給料及び賞与	910	895
賞与引当金繰入額	28	26
退職給付費用	66	60
減価償却費	92	111
貸倒引当金繰入額	42	20

2 減損損失

前第2四半期連結累計期間（自 2018年4月1日 至 2018年9月30日）

当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上しました。

場所	用途	種類
東京都中央区	水産物卸売業用設備等	工具器具備品ほか

当社グループは、原則として、事業用資産については継続的に損益の把握を実施している管理会計上の区分を基礎としてグルーピングを行っており、遊休資産については個別資産ごとにグルーピングを行っております。

当第2四半期連結会計期間において、豊洲新市場への移転時に廃棄される予定の資産について、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失（13百万円）として特別損失に計上しました。その内訳は、工具器具備品8百万円及び建物3百万円等であります。

なお、回収可能価額は、廃棄のため使用価値をゼロとして算定しております。

当第2四半期連結累計期間（自 2019年4月1日 至 2019年9月30日）

該当事項はありません。

（四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係）

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は次の通りであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
現金及び預金勘定	1,124百万円	1,704百万円
現金及び現金同等物	1,124	1,704

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2018年6月26日 定時株主総会	普通株式	94	30.00	2018年3月31日	2018年6月27日	利益剰余金

当第2四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年6月25日 定時株主総会	普通株式	94	30.00	2019年3月31日	2019年6月26日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	水産物卸売	不動産賃貸	水産物その他	合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
売上高						
外部顧客への売上高	48,017	176	4,099	52,293	-	52,293
セグメント間の内部売上高 又は振替高	938	12	896	1,847	1,847	-
計	48,956	188	4,995	54,140	1,847	52,293
セグメント利益	101	90	2	194	-	194

(注)1. 調整額 1,847百万円は、セグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「水産物卸売」セグメントにおいて、豊洲市場への本店移転に伴い、築地市場における設備の減損損失を認識しております。なお、当該減損損失の計上額は13百万円であります。

当第2四半期連結累計期間（自 2019年4月1日 至 2019年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	水産物卸売	不動産賃貸	水産物その他	合計	調整額 （注）1	四半期連結 損益計算書 計上額 （注）2
売上高						
外部顧客への売上高	45,316	178	4,183	49,678	-	49,678
セグメント間の内部売上高 又は振替高	882	12	980	1,875	1,875	-
計	46,198	190	5,164	51,553	1,875	49,678
セグメント利益又は損失（ ）	104	94	4	14	-	14

（注）1. 調整額 1,875百万円は、セグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

（1株当たり情報）

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下の通りであります。

	前第2四半期連結累計期間 （自 2018年4月1日 至 2018年9月30日）	当第2四半期連結累計期間 （自 2019年4月1日 至 2019年9月30日）
1株当たり四半期純利益	43円55銭	12円50銭
（算定上の基礎）		
親会社株主に帰属する四半期純利益 （百万円）	137	39
普通株主に帰属しない金額（百万円）	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純 利益（百万円）	137	39
普通株式の期中平均株式数（株）	3,148,369	3,148,288

（注）潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2019年11月 1 日

大都魚類株式会社

取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 西田 俊之 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 猪俣 雅弘 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 佐藤 太基 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている大都魚類株式会社の2019年4月1日から2020年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2019年7月1日から2019年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2019年4月1日から2019年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、大都魚類株式会社及び連結子会社の2019年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. X B R L データは四半期レビューの対象には含まれていません。